

国際コミュニケーション学科 中国語教育への新たなチャレンジ (2)

Global Communication Department · New Challenge for Chinese Study (2)

青木 萌、張 逸芝

要旨 本稿は長崎短期大学国際コミュニケーション学科の中国語教育についての報告である。第一章では、本学科の2019年度におけるHSKの受験者数と合否について報告する。同時に、2017年度、2018年度のデータとの比較を行う。第二章では、主に2019年度のHSK受験結果のスコアを詳細に表示し解説を行う。第三章においては、本学科の中国留学について報告し、最後の第四章では、2020年度の中国語教育について述べる。

キーワード 中国語教育 HSK 長崎短期大学国際コミュニケーション学科 中国留学

1. HSKの受験者数と合否について

本章では、長崎短期大学国際コミュニケーション学科の中国語検定試験（HSK）の受験者数と合否について述べる。本学科は短期大学としては珍しいクォーター制を導入し、1年間の課程を4つの学期に分けて行っている。そのため、大半の科目は約2ヵ月で終了する。また、これに加えて、2年次に1年間休学して海外留学をする学生も多いため、2ヵ月ごとに授業の履修者数が大きく変わる可能性が高い。本学科の日本人クラスの在籍者数（休学者なども含む）は1年生が37名、2年生が57名である。そして、2019年度に本学科で筆者の中国語の授業を1年間継続して履修した学生は、1年生が18名、2年生が10名である。1科目以上履修したことのある学生を数えた場合は、1年生が16名、2年生が35名である。このような変化に富む状況の中で、2018年度に続き、2019年度もたくさんの学生がHSKに挑戦した。

筆者は2018年度から長崎短期大学に就任したが、それ以前の2017年度と比べて受験者が増え、受験級も向上した¹⁾。そして、2019年度になると、2018年度よりもさらに受験者や受験級が上がり、より多くの合格者を出すことができた²⁾。以下の表1から表3までを見られたい。

表1 2017年度のHSK受験者数と合否

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
受験者	1名 (1年：0名、 2年：1名)	14名 (1年：0名、 2年：14名)	2名 (1年：0名、 2年：2名)	1名 (1年：0名、 2年：1名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	18名 (1年：0名、 2年：18名)
合格者	1名 (1年：0名、 2年：1名)	13名 (1年：0名、 2年：13名)	2名 (1年：0名、 2年：2名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	16名 (1年：0名、 2年：16名)
不合格者	0名 (1年：0名、 2年：0名)	1名 (1年：0名、 2年：1名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	1名 (1年：0名、 2年：1名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	0名 (1年：0名、 2年：0名)	2名 (1年：0名、 2年：2名)

表2 2018年度のHSK受験者数と合否

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
受験者	0名 (1年:0名、 2年:0名)	5名 (1年:3名、 2年:2名)	23名 (1年:15名、 2年:8名)	7名 (1年:5名、 2年:2名)	2名 (1年:1名、 2年:1名)	0名 (1年:0名、 2年:0名)	37名 (1年:24名、 2年:13名)
合格者	0名 (1年:0名、 2年:0名)	4名 (1年:2名、 2年:2名)	21名 (1年:13名、 2年:8名)	6名 (1年:5名、 2年:1名)	1名 (1年:1名、 2年:0名)	0名 (1年:0名、 2年:0名)	32名 (1年:21名、 2年:11名)
不合格者	0名 (1年:0名、 2年:0名)	1名 (1年:1名、 2年:0名)	2名 (1年:2名、 2年:0名)	1名 (1年:0名、 2年:1名)	1名 (1年:0名、 2年:1名)	0名 (1年:0名、 2年:0名)	5名 (1年:3名、 2年:2名)

表3 2019年度のHSK受験者数と合否

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
受験者	7名 (1年:0名、 2年:7名)	4名 (1年:4名、 2年:0名)	12名 (1年:9名、 2年:3名)	10名 (1年:2名、 2年:8名)	9名 (1年:0名、 2年:9名)	1名 (1年:0名、 2年:1名)	43名 (1年:15名、 2年:28名)
合格者	7名 (1年:0名、 2年:7名)	4名 (1年:4名、 2年:0名)	11名 (1年:9名、 2年:2名)	8名 (1年:2名、 2年:6名)	3名 (1年:0名、 2年:3名)	1名 (1年:0名、 2年:1名)	34名 (1年:15名、 2年:19名)
不合格者	0名 (1年:0名、 2年:0名)	0名 (1年:0名、 2年:0名)	1名 (1年:0名、 2年:1名)	2名 (1年:0名、 2年:2名)	6名 (1年:0名、 2年:6名)	0名 (1年:0名、 2年:0名)	9名 (1年:0名、 2年:9名)

今度は上の表1-表3を簡潔にまとめた表を示すことにする。以下の二つの表を見られたい。一つ目の表4は、2017年度から2019年度までの受験者数と合否を簡潔にまとめたものである。二つ目の表5は、2017年度から2019年度までの受験級を簡潔にまとめたものである。

表4 2017年度-2019年度のHSK受験者数と合否

	受験者数	合格者数	不合格者数
2017年度	18名	16名	2名
2018年度	37名	32名	5名
2019年度	43名	34名	9名

表5 2017年度-2019年度の受験級

	1級	2級	3級	4級	5級	6級
2017年度	1名	14名	2名	1名	0名	0名
2018年度	0名	5名	23名	7名	2名	0名
2019年度	7名	4名	12名	10名	9名	1名

上の表1-表5に関する要点を述べる。まず、筆者が就任していない2017年度の時点では、3級以上の合格者はなく、5級と6級の受験者はいない。また、1年生は受験しておらず、いずれも2年生のみである。さらに、受験者と合格者の多い級は2級となっている。

一方、筆者が就任した2018年度では、3級が最も受験者が多く、かつ、1年生で受験し合格する学生がとても多い。4級や5級を受験する学生も現れ、合格率も比較的高い。HSKのホームページによると、4級は大学の第二外国語における第二年度後期履修程度の学習が目安とされており、5級に至っては、主に週2-4回の授業を2年間以上習った者が対象となっているが、本学科の全ての中国語の科目は必修ではなく、また、平均して1コマ90分の授業が週に3コマ程度のため、上記の2018年度の数値はかなり優秀であると言える。

そして2019年度では更なる向上を見せる。2018年度よりも受験者数と合格者数が増え、4級と5級を受験する学生も急増し、更には6級に挑戦する学生も出てきたのである。筆者が2018年度から指導した1年生が、2年次でも順調に中国語の能力が向上していると考えられる。即ち、2018年度の1年生は半分以上の学生が1年間学習して3級または4級を受験し、そして、2年間継続して学んだ学生は、ほぼ全員が2年次の終わりに5級または6級を受験しているのである。しかも、本学に入学してから初めて中国語を学ぶ学生がほとんどである。2019年度で言うと、1年生の中で高等学校で中国語を学んだことのある学生は5名、2年生においては3名である。それ故、筆者の中国語の教育プログラムは一定の効果を果たしていると言える。さて、次章ではスコアを確認しよう。

2. HSK 受験結果のスコアについて

本章ではHSKの受験結果のスコアを見ていくことにする。青木(2019)では2018年度の結果を報告したが、論文集の発行日の関係により、2019年3月31日のHSK受験結果のデータを表示することができなかった。従って、本章では、2019年度のスコアと共に、2018年度にあたる2019年3月31日の受験結果のスコアも報告することにしたい。

以下、1級から6級までの順番で、受験結果のスコアを表示する。学生の名前は表記せず、数字を用いてスコアの高い順に記す。スコアが同じ場合は中国語学習歴が短い者を先に表示する。1級と2級は作文(书写)の試験がなく、200点満点中120点以上が合格で、3級と4級は300点中180点以上が合格である。また、5級と6級は、HSKのホームページによると、2013年の試験より合否の表記がなくなったが、国内外の様々な教育機関等においては、300点満点中180点以上のスコアで合格と見なす傾向が強いため、本稿でも同様に180点以上を合格、180点以下を不合格と表記することにする。では、実際に表6から表11までを順番に見られたい。

表6 HSK1級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	スコア合計	合否
1	2020.2.15	2019	2	99/100	96/100	195/200	合格
2	2019.6.16	2019	2	84/100	89/100	173/200	合格
3	2019.6.16	2019	2	79/100	89/100	168/200	合格
4	2019.6.16	2019	2	79/100	89/100	168/200	合格
5	2019.6.16	2019	2	69/100	84/100	153/200	合格
6	2019.6.16	2019	2	54/100	99/100	153/200	合格
7	2019.6.16	2019	2	69/100	79/100	148/200	合格

表7 HSK2級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	スコア合計	合否
1	2020.2.15	2019	1	95/100	100/100	195/200	合格
2	2020.2.15	2019	1	70/100	100/100	170/200	合格
3	2020.2.15	2019	1	70/100	90/100	160/200	合格
4	2019.3.31	2018	1	62/100	95/100	157/200	合格
5	2020.2.15	2019	1	67/100	82/100	149/200	合格
6	2019.3.31	2018	1	82/100	63/100	145/200	合格
7	2019.3.31	2018	1	56/100	51/100	107/200	不合格

表8 HSK3級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	作文	スコア合計	合否
1	2020.2.15	2019	1	95/100	100/100	96/100	291/300	合格
2	2019.3.31	2018	1	85/100	97/100	100/100	282/300	合格
3	2019.3.31	2018	1	75/100	100/100	100/100	275/300	合格
4	2020.2.15	2019	1	93/100	93/100	88/100	274/300	合格
5	2019.8.17	2019	1	80/100	90/100	89/100	259/300	合格
6	2020.2.15	2019	1	88/100	93/100	76/100	257/300	合格
7	2019.3.31	2018	1	80/100	87/100	89/100	256/300	合格
8	2020.2.15	2019	1	70/100	93/100	88/100	251/300	合格
9	2020.2.15	2019	1	75/100	93/100	80/100	248/300	合格
10	2020.2.15	2019	1	75/100	83/100	84/100	242/300	合格
11	2020.2.15	2019	1	80/100	93/100	68/100	241/300	合格
12	2019.6.16	2019	2	68/100	90/100	70/100	228/300	合格
13	2019.3.31	2018	1	60/100	77/100	85/100	222/300	合格
14	2020.2.15	2019	1	53/100	73/100	68/100	194/300	合格
15	2019.3.31	2018	1	47/100	63/100	81/100	191/300	合格
16	2020.2.15	2019	2	65/100	70/100	56/100	191/300	合格
17	2019.3.31	2018	1	55/100	63/100	65/100	183/300	合格
18	2019.8.17	2019	1	53/100	70/100	53/100	176/300	不合格
19	2019.3.31	2018	1	37/100	40/100	57/100	134/300	不合格
20	2019.3.31	2018	1	30/100	47/100	49/100	126/300	不合格

表9 HSK4級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	作文	スコア合計	判定
1	2019.3.31	2018	1	84/100	90/100	96/100	270/300	合格
2	2019.3.31	2018	1	96/100	88/100	64/100	248/300	合格
3	2020.2.15	2019	1	66/100	93/100	76/100	235/300	合格
4	2019.6.16	2019	2	76/100	79/100	73/100	228/300	合格
5	2019.3.31	2018	1	73/100	73/100	69/100	215/300	合格
6	2019.8.17	2019	2	53/100	90/100	69/100	212/300	合格
7	2019.3.31	2018	1	67/100	73/100	69/100	209/300	合格
8	2019.7.13	2019	2	56/100	79/100	66/100	201/300	合格
9	2019.12.1	2019	2	54/100	75/100	72/100	201/300	合格
10	2019.6.16	2019	2	58/100	74/100	66/100	198/300	合格
11	2019.6.16	2019	2	67/100	62/100	61/100	190/300	合格
12	2020.2.15	2019	1	44/100	73/100	63/100	180/300	合格
13	2019.7.13	2019	2	39/100	77/100	58/100	174/300	不合格
14	2019.8.17	2019	2	49/100	55/100	69/100	173/300	不合格

表10 HSK5級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	作文	スコア合計	判定
1	2019.3.31	2018	1	87/100	98/100	73/100	258/300	合格
2	2020.1.12	2019	2	69/100	71/100	74/100	214/300	合格
3	2020.2.15	2019	2	51/100	70/100	66/100	187/300	合格
4	2019.10.20	2019	2	63/100	57/100	64/100	184/300	合格
5	2019.10.20	2019	2	56/100	61/100	58/100	175/300	不合格
6	2020.2.15	2019	2	48/100	57/100	68/100	173/300	不合格
7	2019.8.17	2019	2	53/100	45/100	74/100	172/300	不合格
8	2020.2.15	2019	2	55/100	65/100	51/100	171/300	不合格
9	2020.2.15	2019	2	53/100	57/100	58/100	168/300	不合格
10	2019.7.13	2019	2	54/100	60/100	30/100	144/300	不合格

表11 HSK6級の受験結果のスコア

順位	受験日	年度	学年	聞き取り	読解	作文	スコア合計	判定
1	2019.8.17	2019	2	73/100	70/100	75/100	218/300	合格

2.1 スコアに対する解説

この節では上記の表のスコアについて解説を行う。まず、特筆に値する学生が5名いるので、これについて詳述したい。

2.1.1 特筆すべき学生について

まず一人目の学生は、高等学校ですでに中国語を学んでいたが、本学科でも引き続き中国語を履修し、熱心に中国語を学んだ。加えて、本学科が提供する1年次の9月から11月までの中国短期留学、つまり、中国安徽省黄山市にある黄山学院で3ヵ月の短期留学を経験した³⁾。その結果、1年次の7月には4級に合格し（聞き取り 78/100、読解 72/100、作文 82/100、合計 232/300）、1年次の3月には5級に合格し（聞き取り 87/100、読解 98/100、作文 73/100、合計 258/300）、そして2年次の8月には、ついに6級に合格することができた（聞き取り 73/100、読解 70/100、作文 75/100、合計 218/300）。

次に二人目の学生は、本学に入学するまでは中国語を学んだ経験がなかったが、とても真面目に授業に取り組み、上述の学生と同様、本学科が提供する黄山学院での短期留学も経験した。結果、中国語を学習し始めてから約10ヵ月後に3級を聞き取り 98/100、読解 100/100、作文 100/100、合計 298/300の高得点で合格し、その約1ヵ月後には4級（聞き取り 84/100、読解 90/100、作文 96/100、合計 270/300）を、さらに約1年6ヵ月後には、5級に合格した（聞き取り 63/100、読解 57/100、作文 64/100、合計 184/300）。

三人目の学生は、1年次は韓国語を履修し、また、高等学校までをも含め、中国語の学習経験がなく、さらに、1年次と2年次のいずれも留学や研修に参加していない。だが、2年次から中国語を履修し、約2ヵ月で3級に合格し（聞き取り 68/100、読解 90/100、作文 70/100、合計 228/300）、約8ヵ月で4級に合格し（聞き取り 54/100、読解 75/100、作文 72/100、合計 201/300）、そして更に約10ヵ月後には5級に挑戦した（聞き取り 53/100、読解 57/100、作文 58/100、合計 168/300）。

四人目の学生も極めて優秀である。本学科に入学してから中国語の学習を開始したが、1年次の3月に3級を（聞き取り 85/100、読解 97/100、作文 100/100、合計 282/300）、2年次の6月に4級を（聞き取り 76/100、読解 79/100、作文 73/100、合計 228/300）、そして中国語の学習をしてから約1年9ヵ月（2年次）で5級に合格することができた（聞き取り 69/100、読解 71/100、作文 74/100、合計 214/300）。実は、当学生は更に、2020年の3月に6級を受験する予定だったが、本稿の注釈1で記すように、新型コロナウイルスのためHSKが中止となり、受験することができなかった。この学生も、上記の三人目の学生と同様で、本学科で学ぶ以前は、中国語の学習歴がなく、留学や研修の経験も一切ないため、本学の中国語学習のみでも、かなりの能力が身に着くと言える。

最後の五人目の学生は、2019年度に入学した1年生である。とても真面目に授業に参加し、9月から11月まで短期留学として黄山学院に行った。本学に入学するまでは中国語を学んだ経験がない。だが、約10ヵ月後に4級に合格（聞き取り 66/100、読解 93/100、作文 76/100、合計 235/300）しているため、今後の成長がとても楽しみである。

以上、五名の特筆すべき学生について詳述した。本学科では青木（2019）からも看取できるように、2018年度の2月から本格的に、HSKの準会場として団体受験を行い始め、その後は、ほぼ毎月1人からでも受験できるメリットをいかし、受験者数が爆発的に増加していった。即ち、2017年度のHSK受験結果を報告した章潔（2018）によると、2017年度の実験結果は、2017年の12月3日に行ったHSKだけによるものだと言うことが分かるが、筆者が就任した年の2018年度は合計で2回長崎短期大学を準会場として団体受験を行い、2019年度には合計7回の団体受験を行ったのである。さらに、筆者（青木）はHSK本部（HSK日本実施委員会）の講習を受講し、6級の試験監督を行える許可も取得した。そして上述の如く、2019年度の8月についに最上級である6級の合格者が誕生したのである。選択科目の第二外国語として週3回程度で中国語を学び、かつ2年以内という短期間において4級や5級に合格するのは容易ではない。6級に至っては極めて難しいと思われる。自明の如く、このような好成绩は学生自身の努力と、計画的で質の高い授業が求められるが、ほぼ毎月HSKの受験チャンスを学生に提供することで、学生は常に明確な目標を持ち続けることができ、より一層の学習効

果が得られたのではないかとと言える。

また、青木（2019）でも言及したが、団体受験を行う場合、本学科の学生以外でも受験が可能のため、今後は、長崎短期大学と同様に九州文化学園の系列校である九州文化学園高等学校や長崎国際大学に在籍する学生の受験も期待したい。

2.1.2 1級を受験した学生について

なお、2019年度は、一番下の級にあたる1級を受験した学生が7名もいたが、いずれも2年次になってから初めて中国語を学び始めた学生である。これらの学生は中国語を初めてから数ヶ月での受験となった。1級は最も簡単な級ではあるが、2年生で就職活動や海外留学が間近に迫っており、また学習意欲の向上と基礎を固めるために、敢えて1級の受験を勧めたのである。

2.1.3 不合格の学生について

不合格の学生についても3点ほど挙げて述べておきたい。

一つは、2018年度には2級と3級に受からなかった学生がいた。つまり表7の7番目の学生と表8の19番目と20番目の学生である。この表7の7番目と表8の19番目は同じ学生である。理由としては以下の点が挙げられる。この二人は、いずれも受験を申し込む2019年1月末の時点では、3級の模擬問題は5割程度の正答率だったが、思い切って受験をすることにした。そして、その内の一人（表7の19）は念のため2級にも挑戦することにした。だが、2月上旬に1年次の授業が全て終了し、二人とも帰省をしたため、試験当日までの1ヶ月余りの間に十分に復習を行えなかったようである。また、この二人は、9月から11月末までは国内インターシップや中国以外の国へ短期留学を行ったため、この期間は中国語の授業に参加していなかった。夏季休暇前に課題やHSKの問題集などは提供したものの、夏季休暇から12月まで中国語をほとんど自習していなかった可能性が高い。そこで2019年度は、HSKの受験申し込み前に、2018年度よりも模擬問題による確認テストを多めに実施し、その結果を踏まえて、より慎重に受験級の選択を行うよう指導した。その結果、2019年度の1年生は、2020年2月15日の受験で14人全員が合格をし、不合格者は一人も出なかった。

いま一つは、4級に2度落ちた学生がいた点である。これは、当学生は2年次の9月に一年間休学をして海外へ行く予定だったため、実際はまだ4級に対応するのが難しいレベルであったが、3級はすでに合格していたので敢えて受験を試みた、といった理由が挙げられる。この反省を踏まえて、2019年度には、4級対策にも更に力を入れた。特に、作文の第一問目の並び替え問題の指導に心血を注いだ。数十冊以上の問題集から問題を選出し、若干の修正を加え、文法現象に基づいてグループ分けをし、一つの問題冊子を作成した。これを学生に解かせることで、2019年度は効率よく並び替え対策を行うことができたと言える。また、3級と5級にも作文の第一問目に並び替え問題があるが、2019年度は、上述の4級に倣い、3級と5級もこのような冊子を作成した。今後も問題を更に追加し、このような教材をより充実させたい。

不合格の学生についての三つ目としては、5級の受験者についてである。表10の10番の学生は作文のスコアが著しく低いが、大きな要因の一つとしては、当学生は、2019年の9月に海外留学に行き、その後はすぐに就職活動に入る予定であり、また、4級にはすでに合格していたため、敢えて早い時期だが5級に挑戦したのである。上の表10から看取できるように、受験日は他の学生よりも2番目に早い。表10における7番の学生も同様で、すでに4級を取得しており、また、9月から海外留学をし、その後は就職活動に専念するため、敢えて早い時期に受験をした。その結果、読解対策が十分ではなく、合格基準と見なされる180点には至らなかったが、あと8点で合格だったため、その時点では全力を尽くせたのではないかと思われる。

以上、不合格の学生について述べたが、当然の如く、不合格に至ったのは、上記の原因以外に、筆者の指導が不十分であったことも当然含まれると言える。既述の如く、2019年度は前年度の反省を基に改善し、一定の効果が得られたが、今後も不合格者を少しでも減らせるよう、更なる努力をしていきたい。

次の第三章では本学科の中国留学について述べる。

3. 中国留学について

青木（2019）で報告したように、本学科は2018年度に中国の安徽省黄山市にある黄山学院で3カ月の短期留学を行い、1年生5名が参加した。翌年の2019年度には6名の1年生が黄山学院へ行き、短期留学を経験した。また、諸先生方のご協力の下、本学科は黄山学院と交換留学に関する締結を行い、2019年度は、3名の2年生が一年間休学し、交換留学生として黄山学院へ留学した。そして更に、黄山学院の3年次編入も可能となった。現在、編入できる学科は以下の通りである。

- ① 中国語文学学科
- ② 中国語国際教育学科
- ③ 経済国際貿易学科
- ④ 旅行管理学科
- ⑤ ホテル管理学科
- ⑥ 英語学科

このような留学プログラムを充実させることで、学生の中国語に対する学習意欲を大幅に向上させることが期待できる。また、2019年度は、本学科で新たに安徽省の蕪湖市にある安徽師範大学への3年次編入（中国語文学学科）を提供することが可能となった。当大学は安徽省の中でトップクラスに位置し、留学生に対する中国語教育にも定評がある。現時点では、6名の2年生が卒業後に編入学（黄山学院3名、安徽師範大学3名）を予定し、1名の2年生が卒業後に安徽師範大学に語学留学する予定である。この中国の留学プログラムは、本稿の筆者の一人である張逸芝が特に尽力し、形成するに至った。

また、編入学をするには、HSK4級または5級の取得（学校や学科によって異なる）が必要となるので、本学科ではほぼ毎月提供できるHSKの団体受験が極めて重要な役割を果たすこととなる。そのため、学生はより明確な目標を持って中国語を学ぶことができ、これが既述のHSKにおける好成績にも大きく影響していると言える。反対に、HSKの受験に向けて熱心に中国語を学び、実際に合格することで、学生は達成感や自信が生じ、中国語や中国に対しても更なる興味が湧き、中国留学を希望するに至るケースもある。それ故、上述の如く、筆者が全力を挙げて取り組んでいるHSKの団体受験と中国の留学制度の充実は極めて重要な相乗効果を果たしていると考えられる。

4. 2020年度に向けて

以上、2019年度の長崎短期大学国際コミュニケーション学科における中国語教育について述べたが、今後の改善点としては以下の2点が挙げられる。

ひとつは、2年生に対する指導である。2019度の2年生は、5級や6級を志す学生が増加するのと同時に、数名の学生は、このペースについていけず、2級や3級を取得した後、更に上の級に挑戦しなかった。このような学生は共通して読解力が乏しい傾向にあった。従って、2020年度は読解力の向上も更に意識しながら指導にあたりたいと考えている。いまひとつは、2019年度は、他の級の結果と比べると、5級の合格率が低かったので、2020年度は5級の対策をさらに徹底したい。

また、青木（2019）では2019度の課題点として、語彙力の向上を提示したが、これについては効果的に行い、HSKの結果も前年度を上回ることができたので、2020年度も引き続き重要視していきたい。

2020年度も更に多くの学生が好成績を出し、就職や留学先で活躍できるよう、引き続き全力で中国語教育に励んでいきたい。

注釈

- 1) 本学科の2017年度のHSKについての詳細は章潔（2018）を見られたい。
- 2) なお、2019年度は本来であれば、2020年3月29日に更に8名の学生が受験をする予定だった（6級1名、5級3名、4級1名、3級2名、2級1名）。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で、HSK日本実施委員

会より中止の連絡を受け、行うことができなかった。

3) 本学科が提供する黄山学院の留学については青木 (2019) を見られたい。

参照文献

青木萌 2019 「国際コミュニケーション学科・中国語教育への新たなチャレンジ—より効果的な中国語教育の取り組みと新たな中国留学システムの確立—」、『長崎短期大学研究紀要 (第 31 号)』。97-101 頁。

章潔 2018 「長崎短期大学生の HSK 受験結果報告と分析」、『長崎短期大学研究紀要 (第 30 号)』 109-116 頁。

HSK ホームページ (<http://www.hskj.jp/> (2020 年 3 月 8 日閲覧))。